

録家集

三
海

六冊
三
角

13
3050
2



嘉永六年癸丑初春新販物目錄

東都地本繪草紙團扇問屋

北之神明前三島町
佐野屋喜兵衛板

前大平記續編
衣住達與初合戰
樂事主人譯
一猛齋畫

如繪書切
二十印字
ま遠初書法
ハ好字

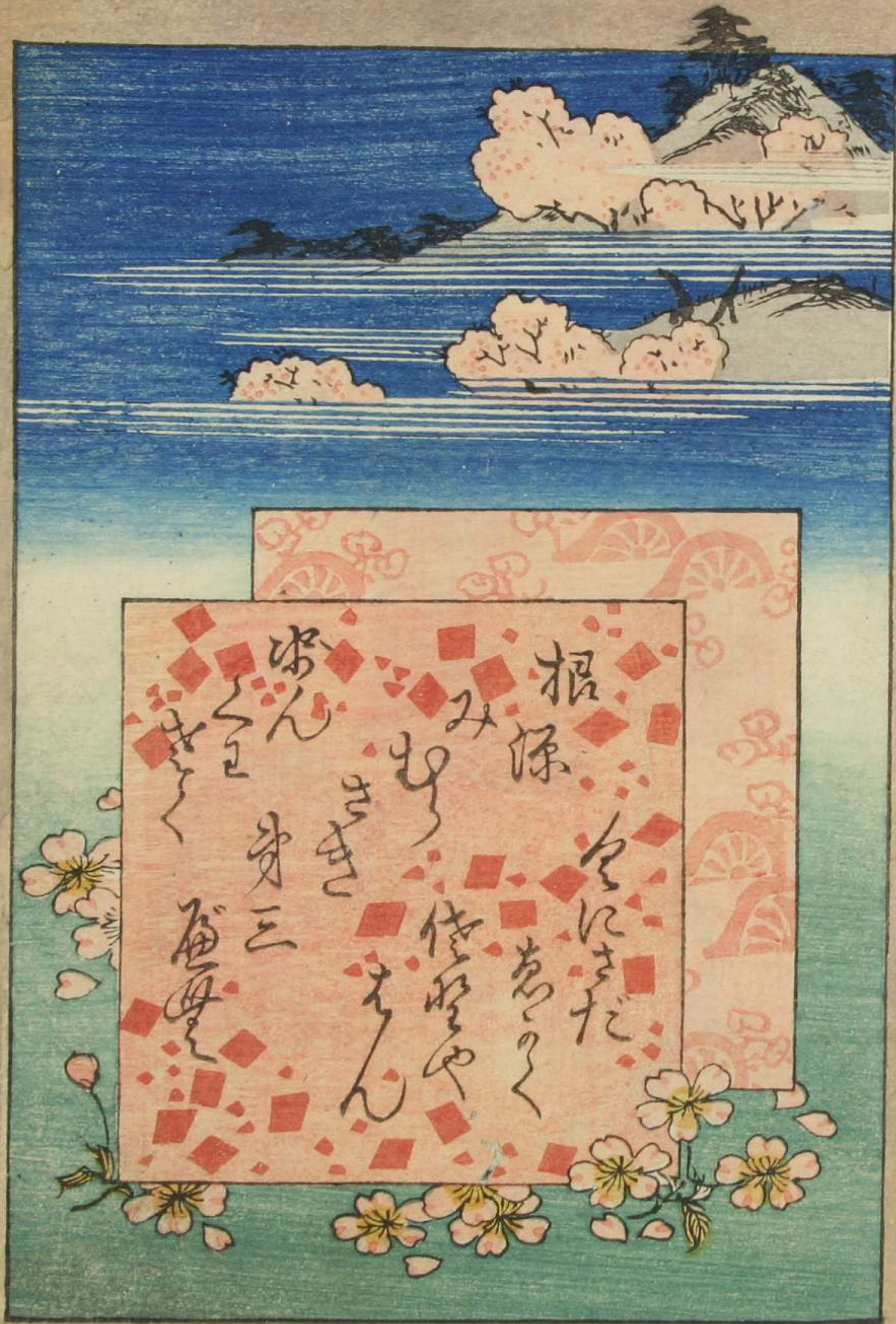
全
風系入
箱入者入
右玉草

繪圖
十編大尾
京山作
本酒画

察鬼如川累縁起
初編二編西馬作國輝画

東海送
五十二次
法書繪
たや入
廣重筆

特
へ13
3050
2





根源實然こんげんじつぜん三編上

笠亭仙果作
梅蝶樓國貞画

喜鶴堂壽梓



招源みちる
片武
弟四郎守
米んく

梅蝶樓
ふさ
是るん
さのやま梓

根原
實
七
仙果作
國貞画



三編下



六郎堂梓

三編上

外題西多國画



実世茶三

此武部
父越後守
為時小
の任国
赴く

たれ
人々
思ふ
たれ
たれ
たれ

破
りその漢
の身
にま

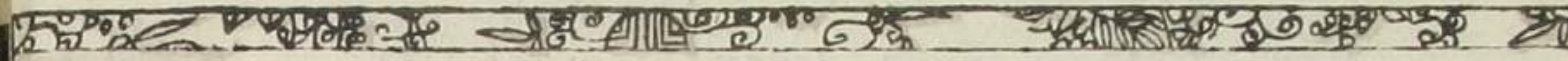
曲
子
園
画



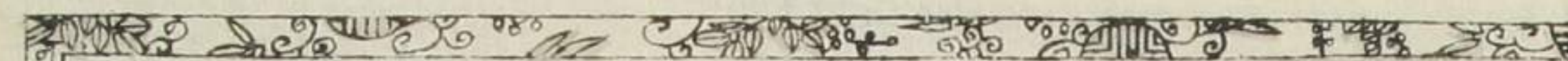
員
母
三編下
さ紀

仙果作
園員画

さの
画
走



實此点の實心より摘み此式部の藤原為時女兄中も勝
 て文学の類敏諸藝不達情ふく篤実温行の賢
 婦より右衛門権佐宜孝の嫁一太貳三位越後弁の二女
 と産宜孝早物故に京極の家小寡居一後上東門
 院の中宮に侍り宮仕一白氏文集の樂府と教まわらせられたる
 又るさるもの日本紀局と倭名つられ又御堂殿の懸想一主人
 中にも貞操正しく後家立立り垂夏の一生活を送りし事
 と善陣新系と岩越と號けりとの夫の遺物と給款と
 一との虚譚と石山と源氏と作初妾語の罪と地獄の墮
 一と証説とあるとこれの外記とを假令日記の本文を
 そのまゝ遺漏せしむるも一西編の足るべし尚其幾編も
 長く續くと主とされ此人源氏と作ける種ありと思へ
 る實統先第一小渡殿の事ありしを並ひ弘徽殿の御寵



遇失をたす前夜の桐壺の更衣の准拠の必要と童蒙中の
 知世はさの筆所掛巻も可畏き
 華山法皇の御一代記二之巻及び三之巻の浦の別須
 慶明石の面影あれ式部と宜孝の邊せ後又一二巻の伊周公の流
 罪のありも虚誕がら演義して次々作べし此編の画面もあつて
 此の本色と損つたれと始終佛をづきすまたる實事針の戲作
 のありも似し此の同色も四天の母と耶素輔とら立者強
 盜をせしむる戲作の花ハテ花が用ねが實なるぬれこそ
 ○大蟹ののり日本化界小載れと阿闍梨ののり以下皆根々一話あり
 ○道兼主の扇ののり砂石系小出り保浦の幻術又歳久の愛童奇童
 九のゆるんぶら小あわとらるる空王言て実の女所別と強しこそまじり
 せよ心小室作とて花山小新羅優せとせののり栄花物語は本文之

癸丑春



笠亭仙果識



侍女少将

大齋院選子内親王

典子内親王



中将の局

式部丞惟規



三ノ目

カキノミヤノミヤノミヤノ
カキノミヤノミヤノミヤノ
カキノミヤノミヤノミヤノ
カキノミヤノミヤノミヤノ
カキノミヤノミヤノミヤノ
カキノミヤノミヤノミヤノ
カキノミヤノミヤノミヤノ
カキノミヤノミヤノミヤノ



カキノミヤノミヤノミヤノ
カキノミヤノミヤノミヤノ
カキノミヤノミヤノミヤノ
カキノミヤノミヤノミヤノ
カキノミヤノミヤノミヤノ
カキノミヤノミヤノミヤノ
カキノミヤノミヤノミヤノ
カキノミヤノミヤノミヤノ

四ノ目



カキノミヤノミヤノミヤノ
カキノミヤノミヤノミヤノ
カキノミヤノミヤノミヤノ
カキノミヤノミヤノミヤノ
カキノミヤノミヤノミヤノ
カキノミヤノミヤノミヤノ
カキノミヤノミヤノミヤノ
カキノミヤノミヤノミヤノ

井根水



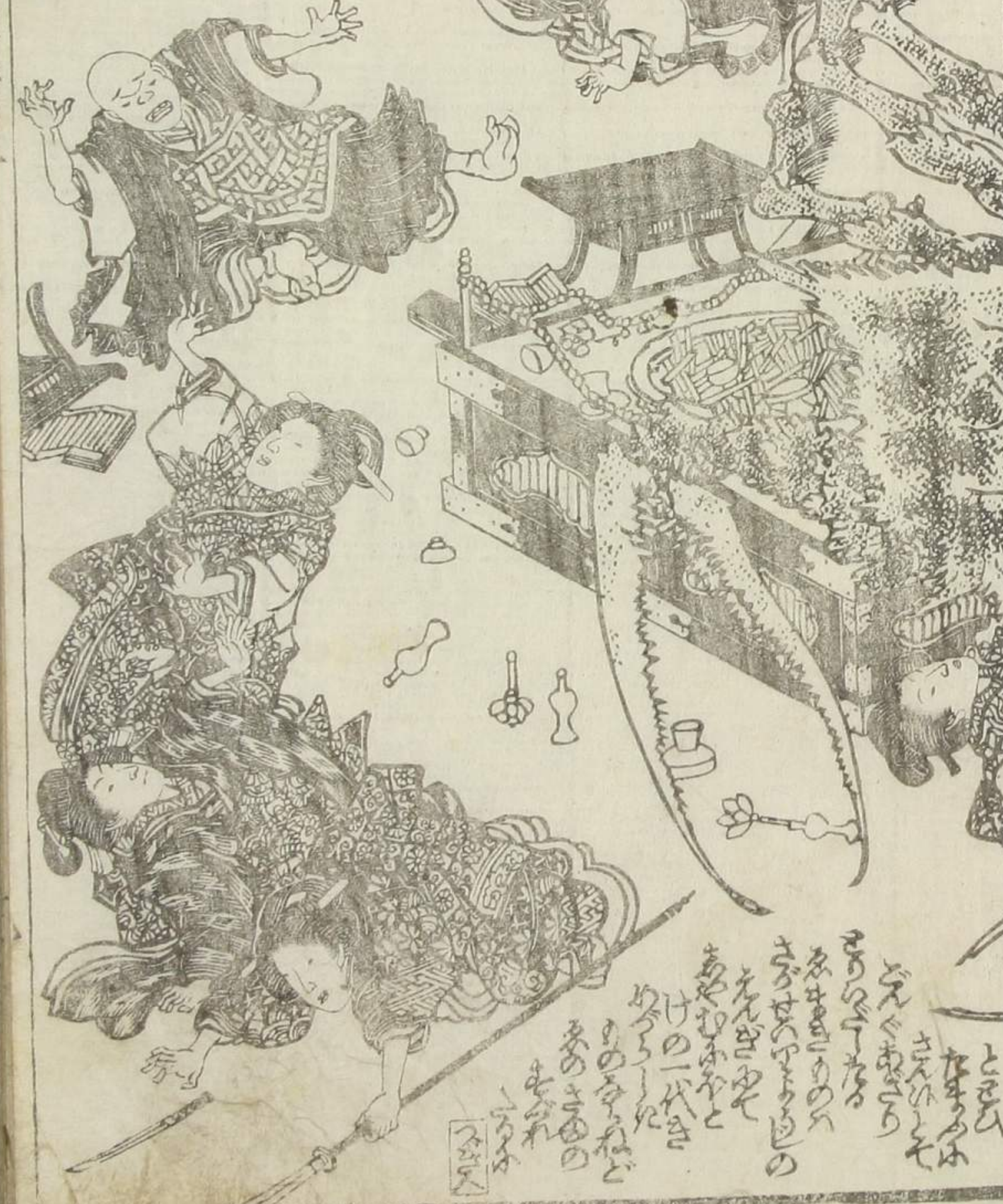
此の事は、
 加ふけかたしなげりかたしと
 かのあかしくせりかたしと
 さうゆゑに、
 ひげやまへかたしと
 ののそりかたしと
 いかたしと
 かのあかしくせりかたしと
 さうゆゑに、
 ひげやまへかたしと
 ののそりかたしと
 いかたしと



〇まじりたまひあかしく
 かたしあかしくせりかたしと
 かたしあかしくせりかたしと
 かたしあかしくせりかたしと

合めり
 一はあかしく
 わんせり

〇まじりたまひあかしく
 かたしあかしくせりかたしと
 かたしあかしくせりかたしと
 かたしあかしくせりかたしと



〇まじりたまひあかしく
 かたしあかしくせりかたしと
 かたしあかしくせりかたしと
 かたしあかしくせりかたしと

〇まじりたまひあかしく
 かたしあかしくせりかたしと
 かたしあかしくせりかたしと
 かたしあかしくせりかたしと

花のうらみはさかたけの
あはれみはさかたけの
みづらみはさかたけの
たまたまみはさかたけの
あはれみはさかたけの



あはれみはさかたけの
みづらみはさかたけの
たまたまみはさかたけの
あはれみはさかたけの
みづらみはさかたけの
たまたまみはさかたけの
あはれみはさかたけの
みづらみはさかたけの
たまたまみはさかたけの
あはれみはさかたけの



あはれみはさかたけの
みづらみはさかたけの
たまたまみはさかたけの
あはれみはさかたけの
みづらみはさかたけの
たまたまみはさかたけの
あはれみはさかたけの
みづらみはさかたけの
たまたまみはさかたけの
あはれみはさかたけの

あはれみはさかたけの
みづらみはさかたけの
たまたまみはさかたけの
あはれみはさかたけの
みづらみはさかたけの
たまたまみはさかたけの
あはれみはさかたけの
みづらみはさかたけの
たまたまみはさかたけの
あはれみはさかたけの

あはれみはさかたけの
みづらみはさかたけの
たまたまみはさかたけの
あはれみはさかたけの
みづらみはさかたけの
たまたまみはさかたけの
あはれみはさかたけの
みづらみはさかたけの
たまたまみはさかたけの
あはれみはさかたけの



三ノ
 一ノ
 二ノ
 三ノ
 四ノ
 五ノ
 六ノ
 七ノ
 八ノ
 九ノ
 十ノ
 十一ノ
 十二ノ
 十三ノ
 十四ノ
 十五ノ
 十六ノ
 十七ノ
 十八ノ
 十九ノ
 二十ノ



三ノ
 一ノ
 二ノ
 三ノ
 四ノ
 五ノ
 六ノ
 七ノ
 八ノ
 九ノ
 十ノ
 十一ノ
 十二ノ
 十三ノ
 十四ノ
 十五ノ
 十六ノ
 十七ノ
 十八ノ
 十九ノ
 二十ノ

Handwritten text in a cursive script, likely a transcription of a Japanese text, located at the top of the right page.

Handwritten text in a cursive script, located in the middle section of the right page.

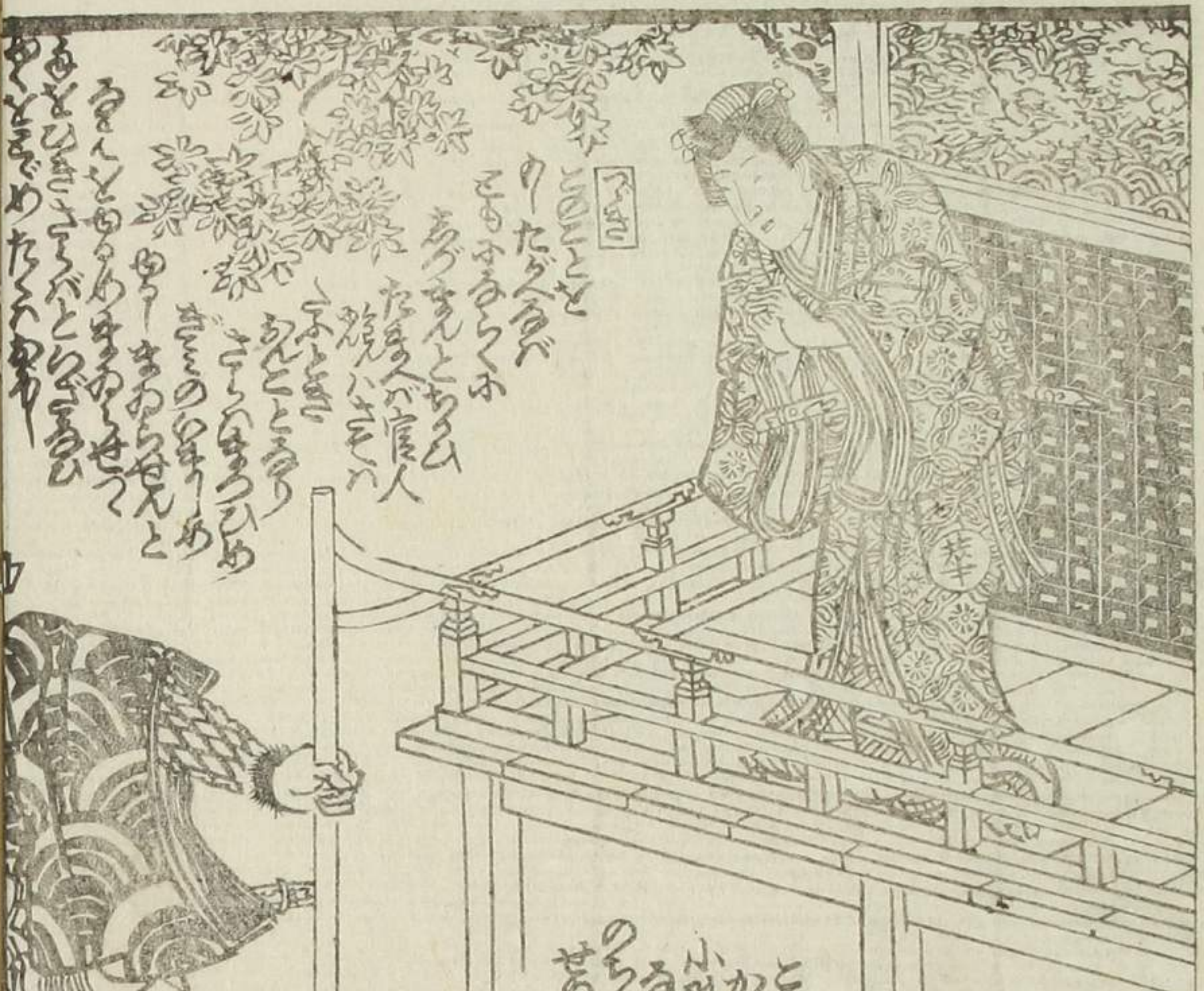
Handwritten text in a cursive script, located at the bottom section of the right page.



Handwritten text in a cursive script, located at the top left of the illustration area.



Handwritten text in a cursive script, located at the bottom left of the illustration area.



ちたてふ
 ちたてふ
 ちたてふ
 ちたてふ
 ちたてふ
 ちたてふ
 ちたてふ
 ちたてふ
 ちたてふ
 ちたてふ
 ちたてふ

ちたてふ
 ちたてふ
 ちたてふ
 ちたてふ
 ちたてふ
 ちたてふ
 ちたてふ
 ちたてふ
 ちたてふ
 ちたてふ
 ちたてふ



ちたてふ
 ちたてふ
 ちたてふ
 ちたてふ
 ちたてふ
 ちたてふ
 ちたてふ
 ちたてふ
 ちたてふ
 ちたてふ

ちたてふ
 ちたてふ
 ちたてふ
 ちたてふ
 ちたてふ
 ちたてふ
 ちたてふ
 ちたてふ
 ちたてふ
 ちたてふ

根

源

實

武

左

四編上



四編下

仙

果作



四
頁
画

外題曲五國高

表鶴堂

貴免



實紫四編序 笠亭述

妻子珍宝及王位云云貪慾の深人驚かす金言る事
 此草紙の御門の様不受過られた他の迷惑野を多る彼方の物と
 して血脉一枚珠数一連と相山と諷せ遣はる彼等泪と覆後
 生氣と波を位が好頂合を思ふ故人本町菴公羽も既れりる
 ら湯屋の比論が便是知人慾の垢と脱し柘榴口と潜の上御深窓を
 もかとも同く王君も僮僕も皆裸体手中一條襖袋を身は添物を
 する利利も須陀も異らざりける如是悟る則ち萬の宝蔵目前の我
 等風情の拙作も見せふよとの教訓を多る疎漏勿あふんを
 揚言帆掛船仙洞様を錢湯をうすの應兼合をて
 柄小あさ華管のりも表らぬ重禪を唯白の追風を力漕舟を
 るも罷られぬ續物又一帙方絶えとを時るぬ汗とを小
 癸丑新刊 かくのの赤面るる仙果とやま倍父とを

さの瓦板

美

母

は

甲編下冊

仙果作

國貞画





曲五團扇

葛城山魔女

土蜘蛛

摂津守

源頼光





袴無保輔

西園寺



和泉守藤原保昌





まのひらりと
あつらひの
とらちの
まのひらりと
あつらひの
とらちの

弘微殿は
まのひらりと
あつらひの
とらちの
まのひらりと
あつらひの
とらちの



あつらひの
とらちの
まのひらりと
あつらひの
とらちの
まのひらりと
あつらひの
とらちの

あつらひの
とらちの
まのひらりと
あつらひの
とらちの
まのひらりと
あつらひの
とらちの



あつらひの
とらちの
まのひらりと
あつらひの
とらちの
まのひらりと
あつらひの
とらちの



Doji: 此の如く
 Yasuda: 此の如く

Doji: 此の如く
 Yasuda: 此の如く

Doji: 此の如く
 Yasuda: 此の如く



Character: 此の如く
 Pine branches: 松の葉

Character: 此の如く
 Pine branches: 松の葉



Vertical Japanese text in the upper left corner of the right page, likely a title or introductory text.

Vertical Japanese text in the lower right corner of the right page, likely a dialogue or commentary.



Vertical Japanese text in the upper left corner of the left page, likely a title or introductory text.

Vertical Japanese text in the lower right corner of the left page, likely a dialogue or commentary.



かきまはるゝあはれなまはれては
 けしきもまじくやこれくも
 ひろくあはれなまはれては
 けしきもまじくやこれくも

けしき
 あはれ
 まはれ
 けしき
 あはれ
 まはれ

それいあはれなまはれ
 けしきもまじくやこれくも
 ひろくあはれなまはれ
 けしきもまじくやこれくも

このあはれなまはれ
 けしきもまじくやこれくも
 ひろくあはれなまはれ
 けしきもまじくやこれくも



これ
 あはれ
 まはれ
 けしき
 あはれ
 まはれ

供奉
 けしき
 あはれ
 まはれ
 けしき
 あはれ
 まはれ

それいあはれなまはれ
 けしきもまじくやこれくも
 ひろくあはれなまはれ
 けしきもまじくやこれくも

供奉
 けしき
 あはれ
 まはれ
 けしき
 あはれ
 まはれ



あつたてん
 三のまき下りのかき
 るまのち
 めすち官神
 由あるさけ
 そもくか
 二のゆ
 三のゆ
 四のゆ
 五のゆ
 六のゆ
 七のゆ
 八のゆ
 九のゆ
 十のゆ
 十一のゆ
 十二のゆ
 十三のゆ
 十四のゆ
 十五のゆ
 十六のゆ
 十七のゆ
 十八のゆ
 十九のゆ
 二十のゆ
 二十一のゆ
 二十二のゆ
 二十三のゆ
 二十四のゆ
 二十五のゆ
 二十六のゆ
 二十七のゆ
 二十八のゆ
 二十九のゆ
 三十のゆ
 三十一のゆ
 三十二のゆ
 三十三のゆ
 三十四のゆ
 三十五のゆ
 三十六のゆ
 三十七のゆ
 三十八のゆ
 三十九のゆ
 四十のゆ
 四十一のゆ
 四十二のゆ
 四十三のゆ
 四十四のゆ
 四十五のゆ
 四十六のゆ
 四十七のゆ
 四十八のゆ
 四十九のゆ
 五十のゆ
 五十一のゆ
 五十二のゆ
 五十三のゆ
 五十四のゆ
 五十五のゆ
 五十六のゆ
 五十七のゆ
 五十八のゆ
 五十九のゆ
 六十のゆ
 六十一のゆ
 六十二のゆ
 六十三のゆ
 六十四のゆ
 六十五のゆ
 六十六のゆ
 六十七のゆ
 六十八のゆ
 六十九のゆ
 七十のゆ
 七十一のゆ
 七十二のゆ
 七十三のゆ
 七十四のゆ
 七十五のゆ
 七十六のゆ
 七十七のゆ
 七十八のゆ
 七十九のゆ
 八十のゆ
 八十一のゆ
 八十二のゆ
 八十三のゆ
 八十四のゆ
 八十五のゆ
 八十六のゆ
 八十七のゆ
 八十八のゆ
 八十九のゆ
 九十のゆ
 九十一のゆ
 九十二のゆ
 九十三のゆ
 九十四のゆ
 九十五のゆ
 九十六のゆ
 九十七のゆ
 九十八のゆ
 九十九のゆ
 百のゆ



あつたてん
 花山
 元山
 一のゆ
 二のゆ
 三のゆ
 四のゆ
 五のゆ
 六のゆ
 七のゆ
 八のゆ
 九のゆ
 十のゆ
 十一のゆ
 十二のゆ
 十三のゆ
 十四のゆ
 十五のゆ
 十六のゆ
 十七のゆ
 十八のゆ
 十九のゆ
 二十のゆ
 二十一のゆ
 二十二のゆ
 二十三のゆ
 二十四のゆ
 二十五のゆ
 二十六のゆ
 二十七のゆ
 二十八のゆ
 二十九のゆ
 三十のゆ
 三十一のゆ
 三十二のゆ
 三十三のゆ
 三十四のゆ
 三十五のゆ
 三十六のゆ
 三十七のゆ
 三十八のゆ
 三十九のゆ
 四十のゆ
 四十一のゆ
 四十二のゆ
 四十三のゆ
 四十四のゆ
 四十五のゆ
 四十六のゆ
 四十七のゆ
 四十八のゆ
 四十九のゆ
 五十のゆ
 五十一のゆ
 五十二のゆ
 五十三のゆ
 五十四のゆ
 五十五のゆ
 五十六のゆ
 五十七のゆ
 五十八のゆ
 五十九のゆ
 六十のゆ
 六十一のゆ
 六十二のゆ
 六十三のゆ
 六十四のゆ
 六十五のゆ
 六十六のゆ
 六十七のゆ
 六十八のゆ
 六十九のゆ
 七十のゆ
 七十一のゆ
 七十二のゆ
 七十三のゆ
 七十四のゆ
 七十五のゆ
 七十六のゆ
 七十七のゆ
 七十八のゆ
 七十九のゆ
 八十のゆ
 八十一のゆ
 八十二のゆ
 八十三のゆ
 八十四のゆ
 八十五のゆ
 八十六のゆ
 八十七のゆ
 八十八のゆ
 八十九のゆ
 九十のゆ
 九十一のゆ
 九十二のゆ
 九十三のゆ
 九十四のゆ
 九十五のゆ
 九十六のゆ
 九十七のゆ
 九十八のゆ
 九十九のゆ
 百のゆ



あつらひの
きりぎりす
さき



あつらひの
きりぎりす
さき

あつらひの
きりぎりす
さき
あつらひの
きりぎりす
さき
あつらひの
きりぎりす
さき



あつらひの
きりぎりす
さき
あつらひの
きりぎりす
さき



あつらひの
きりぎりす
さき
あつらひの
きりぎりす
さき

あつらひの
きりぎりす
さき
あつらひの
きりぎりす
さき
あつらひの
きりぎりす
さき



根源實紫

三編四編五編

睡郷

七組子枕

笠亭仙果作
六編七編
勇齋國芳画

おくみ

琴聲

美人録
八編
雄齋國輝画

關太郎鈴鹿故語

樂亭西馬作
四編五編
雄齋國輝画

教訓乳母草紙

京山作
九編十編
國輝画

將大江山入

西馬譯
前編後編
芳虎画

井

江戶地本繪草紙團扇問屋
芝神明前三島町角
佐野屋喜兵衛板

此書は八代氏物語の傳世書式紙の一代記なりかの
笑傳人托見紀よれをえきかしのほろりあはれ
あやういそきのほろりあはれをえきかしのほろりあはれ
女子達のわんともあやういそきのほろりあはれをえきかしのほろりあはれ

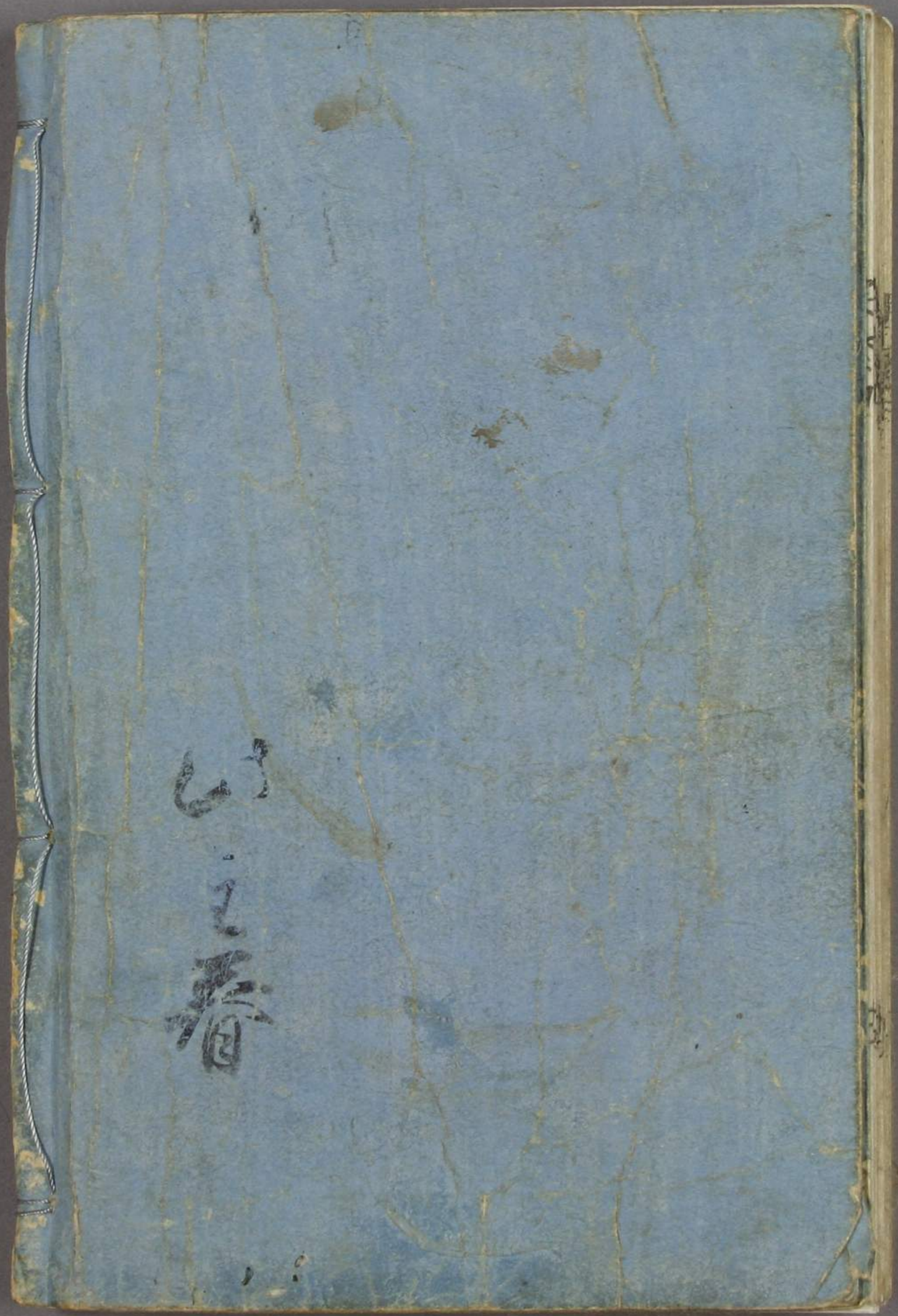


仙果作國貞画

清書
金川

実紫四





しんぞく